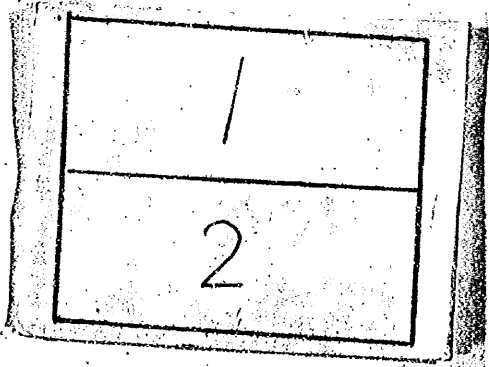


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

33

部隊原

佐上支

第

原簿

第一二六師團

5A



分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	<table border="1" data-bbox="630 743 1161 1115"><tr><td data-bbox="630 743 890 929">1</td><td data-bbox="890 743 1161 929">2</td></tr><tr><td data-bbox="630 929 890 1115">3</td><td data-bbox="890 929 1161 1115">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

第五軍
部 隊 名
第一二六師團司令部

通 稱 號

五

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人制編	部 隊 別		隊 長 名		戰 闘 間 の 状 況 及 損 耗		の 人 員 變 動		入 ソ ン の 變 動		隊 別 計	滿 洲 殘 留					
昭二〇、八、八、ソ連軍飛來攻撃、八、九、零時頃よりソ連軍の攻撃開始を五時頃「ソ」軍は部隊を地域に侵入す。 八、一〇、八面附近の戦斗に於て前線との連絡絶たれ、軍令に依り橋を断つ。近に連日を開始（於八面近西方四〇村自費屯） （當時の兵力） 二〇〇、三、一〇 山砲一五 砲一五 二八 二〇、三、一〇 二、五、二〇 二〇、三、一〇 二、五、二〇 二、五、二〇 二、五、二〇		十九年以降	十九年以降	員人制編	部 官 副	部 課 參	部 理 管	部 器 兵	部 理 經	部 醫 軍	師團長 中將 野澤 式彦 少佐 小林彦三郎 專屬副官 中尉 中田 重義	長 田中 正司 參謀 荻野 重幸 中佐 荻野 重幸	少尉 寺川 英夫 少佐 本田 外康 代理 本田 外康	代理主計 少佐 香取 英雄	代理軍醫 少佐 古井 貞臣	(内は先代を示す)	人員 戰 時 八面 通 屯 自 與	衛生班 衛生班員 衛生班員	作業大隊より 入ソンの變動 二〇、一〇下旬 牡丹江にて第一五七大隊 （坂山下英）に一五名編入	入ソソ人員 滿洲残留	補 担 司 / 25D ? 基 幹 3G・12G 140 ? (20.3.10) 117 (26) (20.1.16編成)

隊名 第一二六師團司令部

通稱 英滿六二五

郵便所名

別隊	副官部	參謀部	管理部	兵器部	經理部	軍醫部
隊長名 (内は先代を不示す) 師團長 野澤 式彦 中將 野澤 式彦 少佐 小林 彦三郎 専屬副官 中田 重義	長 田中 正司 參謀 萩野 重幸 大佐 中佐	少尉 寺川 英夫 少佐 本田 外康 少佐 香取 英彦	代理主計 香取 英彦 少佐 香取 英彦	代理軍醫 古井 貞臣 少佐 古井 貞臣		
關人 時員 男 4 女 13	男 3 女 11	兵 98	兵 6	兵 13	兵 20	兵 6
駐屯地	駐屯地	駐屯地	駐屯地	駐屯地	駐屯地	駐屯地
戰鬥間の状況及損耗	戰鬥間の状況及損耗	戰鬥間の状況及損耗	戰鬥間の状況及損耗	戰鬥間の状況及損耗	戰鬥間の状況及損耗	戰鬥間の状況及損耗
人員變動	人員變動	人員變動	人員變動	人員變動	人員變動	人員變動
作業大隊より入ソノ之の變動	作業大隊より入ソノ之の變動	作業大隊より入ソノ之の變動	作業大隊より入ソノ之の變動	作業大隊より入ソノ之の變動	作業大隊より入ソノ之の變動	作業大隊より入ソノ之の變動
入ソノ人員	入ソノ人員	入ソノ人員	入ソノ人員	入ソノ人員	入ソノ人員	入ソノ人員
滿洲殘留	滿洲殘留	滿洲殘留	滿洲殘留	滿洲殘留	滿洲殘留	滿洲殘留
收容所	收容所	收容所	收容所	收容所	收容所	收容所
歸還人員	歸還人員	歸還人員	歸還人員	歸還人員	歸還人員	歸還人員
者	者	者	者	者	者	者

補担司/25D ? 140 ? 117 (20.1.16編成)
基幹 3G・12G (20.3.10) (26)

部 醫 隊	部 醫 軍	部 理 經	部 器 兵	部 理 管	部 謀 参	部 官 副
代理 獣醫 少佐 島田 文彦	代理 軍醫 少佐 古井 貞臣	代理 主計 少佐 香取 英雄	代理 少佐 本田 外康	少尉 寺川 英夫 少佐 杉本 孝之助 少佐 藤田 善之助	長 大佐 田中 正司 参謀 中佐 萩野 重幸	主任 中田 眞澄 少佐 小笠原 三郎 少佐 小笠原 三郎 少佐 小笠原 三郎
(將1) (F3)	(將2) (准1) (F3)	20 (將3) (男5) (女3)	13 (將2) (准1) (下4) (属6)	105 (將1) (下6) (兵98)	68 (將6) (下10) (属3) (男女11) (兵39)	28 (將3) (准1) (下7) (属2)
						通言八
						定員前
				衛生隊馬車取扱員用多口目種車取扱員		

衛生隊馬車取扱員用多口目種車取扱員
定員前

HOJ 1041
SINGAPORE
CENTRAL LIBRARY

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	<table border="1" data-bbox="627 705 1163 1077"><tr><td data-bbox="627 705 887 891">1</td><td data-bbox="887 705 1163 891">2</td></tr><tr><td data-bbox="627 891 887 1077">3</td><td data-bbox="887 891 1163 1077">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影した理由	A 3判以上のため				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0141
0142

第五軍第一二六師團 部隊名 歩兵第二七七聯隊 (一)

通稱號

英滿 一八八八
一五二五二

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員入別編		隊別		隊長名		戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入ツ迄の變動	
所屬		十九年以降		十九年以降		別		()内は先代を不示		時員		駐屯地		入ツ人員	
全般概要		轉入		轉出		編制		隊長名		戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入ツ迄の變動	
主力(聯本、二六、三六)は下城子西南方二、三附近に陣地構築中同地より一部の部隊は牡丹江海沿路近で交戦約半日の損害あり又、七、九、九、九、九、九の損害あり、向、被河より牡丹江後退中戦斗した様様である		二〇、三、一〇 三〇、三、一〇 三二、三、一〇 三二、三、一〇		二〇、三、一〇 二二、三、一〇 二二、三、一〇		47		大佐 山本 義雄 副官 後藤 利彌 中尉 後藤 利彌		子城下		牡丹江、海林、二道河沿、長嶺、池田、大佐に編入		作業大隊より入ツ迄の變動	
八、一七、後道河子に於て式被隊		二〇、三、一〇 二二、三、一〇		二〇、三、一〇 二二、三、一〇		35		大尉 水本 隆三		鎮樹梨		終戦後の人員變動		作業大隊より入ツ迄の變動	
第一大隊 八、九、二、梨樹嶺附近に於て戦斗せるも後被隊部隊のため突進され詳細不明		二〇、三、一〇 二二、三、一〇 一九九		二〇、三、一〇 二二、三、一〇		217		中尉 川本 茂		山梨		終戦後の人員變動		作業大隊より入ツ迄の變動	
3410名 (20.1.16編成)		217		217		217		少尉 松田 正彦 (武智)		山梨		終戦後の人員變動		作業大隊より入ツ迄の變動	
217		217		217		217		少尉 松本 島雄		山梨		終戦後の人員變動		作業大隊より入ツ迄の變動	
217		217		217		217		少尉 松本 島雄		山梨		終戦後の人員變動		作業大隊より入ツ迄の變動	

第一連隊中隊の一ヶ小隊配属せられ梨山國境の守備に任ず
八、九、戦斗状態に入る戦死二名戦傷一〇名内外、八、一、一、戦傷となり被隊共死傷約二分の一、敵の重圍に陥り六〇名を捕縛し後退せり
九、六、被隊共戦後、馬場にて式被せらる

部隊主力と異れて他部隊と共に作業大隊を編成せらる

名 步兵第二七七聯隊 (一)

通稱 英滿

郵便所名

第 三 隊	第 二 中 隊	第 一 中 隊	第 一 大 隊 本 部	第 一 隊 本 部	聯 隊 別
少尉 (小谷) 松本 鳥雄	少尉 (武智) 松田 正彦	中尉 川本 茂	大尉 水本 隆三	大佐 山本 義雄 副官 後藤 利彌	隊長名 () 内は先代を示す
	180~200				開入 戦時 駐屯地 平時 戦時
山神勇	山 梨	鏡橋梨		子城下	駐屯地
掖河より牡丹江へ後退中交戦す 損害約三分の一	第一機關銃中隊の一ヶ小隊を編成し、山梨の守備に任ず。八、九、戦時状態に入る。戦死二名、負傷者三名、内八、二一、戦時となり、戦死約二分の一、敵の重砲に射り大の損害を受けし後退す。九、六迄戦時し、後、馬場にて戦時す。				戦闘間の状況及損耗
					人員變動 昭和二十年九月二十日頃作業大隊として出隊 約十名、海林編成、牡丹江陸校第二大隊(長菊池大佐)に編入(將士一ラ一ダ)へ
					作業大隊より入ソ連の變動 入ソ連人員 隊別計
					滿洲残留
					收容所名
					收容所
					人員
					死亡
					満洲より 人員
					計
					者

部隊主力と別れて他部隊と共に作業大隊を編成せしむ

隊名 歩兵第二七七聯隊(一)

通稱號

滿洲 英斷一五二五二八

郵便所名

別	隊	聯	部	第	第	第	第	第
隊長名 (内は先代を示す)	大尉 水本 隆三	中尉 川本 茂	少尉 (武智) 松田 正彦	少尉 (小谷) 松本 鳥雄				
開人 戦時員				180~200				
駐屯地								
戦闘間の状況及損耗	<p>第一機銃中隊の一ヶ小隊配属せられ梨山國境の守備に任ず 八、九、戦時状態に入る戦死二名戦傷一〇名内外、八、一一、激戦となり彼我共死傷約二分の一、敵の重圍に陥り六〇名を捕縛し後退せり 九、六迄戦斗し後、寫真にて賞解せらる</p>							
終戦後の人員變動	<p>一四七大隊 (空) 高橋 大隊 約三〇〇名 九大隊 (空) 井手 中尉 (空) 藤原 中尉 (空) 藤原 中尉</p>							
作業大隊より入ッ」迄の變動	<p>部隊主力と異れて他部隊と共に作業大隊を編成せらる</p>							
入ッ」人員								
隊別計								
滿洲残留								
收容所								
收容所名								
所入								
死亡								
滿洲より領								
人員計								
者數								
狀況不明								

第一大隊	八、九、一〇、一二、桑樹嶺附近 に於て戦半ばより、激戦化後 隊のため突進を許し、詳細不明	二〇、三〇、 一〇一
第二大隊	八、一七、筑前河守に於て 激戦後	二〇、三〇、 二二八
第三大隊	二〇、三〇、 二二八	二〇、三〇、 二二八
第四大隊	二〇、三〇、 二二八	二〇、三〇、 二二八
第五大隊	二〇、三〇、 二二八	二〇、三〇、 二二八
第六大隊	二〇、三〇、 二二八	二〇、三〇、 二二八
第七大隊	二〇、三〇、 二二八	二〇、三〇、 二二八
第八大隊	二〇、三〇、 二二八	二〇、三〇、 二二八
第九大隊	二〇、三〇、 二二八	二〇、三〇、 二二八
第十大隊	二〇、三〇、 二二八	二〇、三〇、 二二八

3410名 (20.1.16編成)

275	217	217	217	35	47
第一機關銃中隊	第三中隊	第二中隊	第一中隊	第一大隊本部	家本部
(兼務) 少尉 松田 正彦 (歸還)	少尉 松本 鳥雄 (小谷)	少尉 松田 正彦 (武智)	中尉 川本 茂	大尉 六本 隆三	副官 後藤 利雄
		180~200			
山梨	山神勇	山梨	鎮樹梨		子城
一ヶ小隊は第二中隊に配属	拉河より牡丹江へ後進中交戦す 損害約三分の二	第一機關銃中隊の一ヶ小隊配属せられ、山 國境の守備に任ず 八、九、戦半ばに入ると戦死二名、重傷一〇 名内外、八、一一、激戦となり後退、死者 約三分の一、敵の重圍に陥り六〇名を捕縛 し後退せり 九、六、激戦半ば、町前にて突撃せらる			

部隊主力と見られて他部隊と
共に作業大隊を編成せらる

少尉 (松田 正彦) (松田 正彦) (松田 正彦)	少尉 松本 鳥雄 (小谷)	少尉 松田 正彦 (武智)	中尉 川本 茂	大尉 永本 隆三	少尉 後藤 親
		180~200			
山 梨	山神勇	山 梨	鎮樹梨		子家
一ヶ小隊は第二中隊に配属	坂河より牡丹江へ後退中交戦し、損害約三分の二	第一機銃中隊の一ヶ小隊配属せられ梨山國領の守備に任ず 八、九、戦斗状態に入る戦死二名戦傷一〇名内外、八、一一、激戦となり後我共死傷約二分の一、敵の重圍に陥り六〇名を捕縛し後退せり 九、六逸撃を食し後、馬場にて武解せらる			
		部隊主力と別れて他部隊と共に作戦大隊を構成せらる			

大正六年(一九一七)五月二十一日(五三)第二〇九号(六三)第九八八号

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="647 730 1182 1099"><tr><td data-bbox="647 730 906 913">1</td><td data-bbox="906 730 1182 913">2</td></tr><tr><td data-bbox="647 913 906 1099">3</td><td data-bbox="906 913 1182 1099">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0140
0141
0142

第五軍

部隊名

(四)

通稱號

郵便所名

全般概要
 轉入
 轉出
 員人編
 別除
 隊長名
 戰時人員
 駐屯地
 戰時
 戦半間の状況及損耗
 戦後の人員變動
 作業大隊より
 入ソノ人員
 入ソノ人員
 滿洲殘

聯	201	217	124	51	275
隊中砲兵歩	隊中砲兵歩	隊中通信	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊中銃關機三第
少尉 平身代秀夫 (中尉 藤原 浩)	指揮官 中尉 井杉 静夫	中尉 井杉 静夫			中尉 瀧井 俊雄
76	300				120
河載半 (動移=通面八=後)					頭石大 子城下
八、一〇、大石山下、 八、一一、行方不明一名、 八、一四、配屬砲兵中隊、 八、一六、一團山砲隊主力と、 八、二四、代馬橋附近に於て解散					八月八日迄、山砲隊、 約三十名、負傷一名、 八月九日牡丹江方面に移動、 大關山と五二に分れて陣地にづく、 戦死五名、行方不明
二八一大隊 (八名は他へ轉出)					
17					

聯	隊中砲兵歩	隊中信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊中就關機三第	別隊	隊名
	少尉 藤原清 中尉 井杉静夫	指揮班 中尉 井杉静夫			中尉 瀧井俊雄	(内は先代を示す)	隊長名
	76	100			120	時員	戦關人
	河載半 (動移=通面八=後)				頭石大	平時	駐屯地
					子城下	戦時	駐屯地
	八八 二八 八二 一六 一六 八二						戦時 戦時 戦時 戦時 戦時 戦時

(四)

八月八日迄
第一山地隊
に配属、八月九日
牡丹江方面で戦死
五名、行方不明二
人、大關山と五二

部隊名

(四)

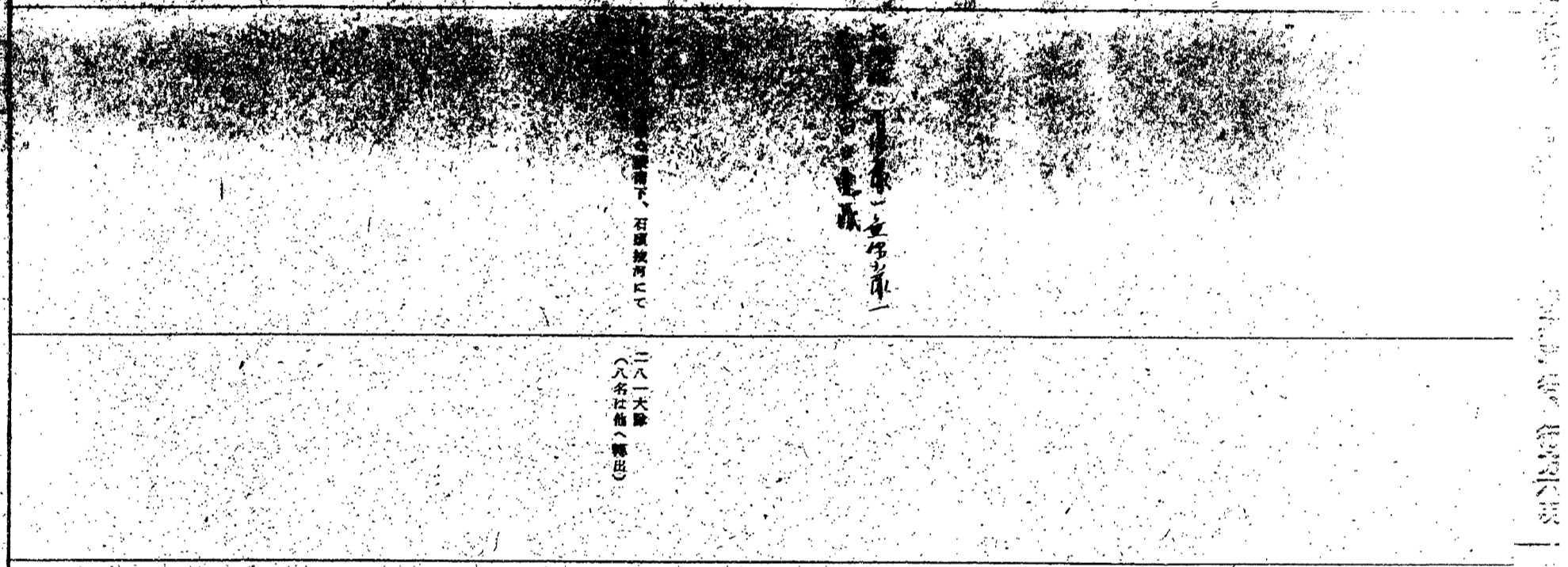
通稱號

郵便所名

聯	隊中砲兵歩	隊中通信	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊中銃關	別隊		戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ッ返の變動	入ッ人員	満洲残留	收容所		歸還人員	状況不明者数
						隊長名	隊員数						收容所名	死亡		
	少尉 平身代秀夫 (中尉 藤原 清)	指揮班 中尉 井杉 静夫														
	76	100														
	河載半 (動移=通面八=後)															
	八、一〇、大石山に轉進(殘留四三名) 八、一一、行方不明一名 八、一四、配屬砲兵中隊長の指揮下に入る 八、一六、一區山轉進主力と分離 八、二四、代馬藩附近に於て解散															
	二八一大隊 (八名は他へ轉出)															
	17															

191	201	217	124	51	275	
隊小馬乘	李行隊聯	隊中砲兵歩	隊中信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊中砲兵歩大三第
		少尉 平身代秀夫 (中尉 藤原 清)	指揮班 中尉 井杉 静夫 有保隊 直任(原) 長官 山口 隆成			
		76	300			120
		河載半 (動移=通面八=後)				275
		八、一〇、大石山に轉進(通面八) 八、一四、行方不明一名 八、一四、鹿島砲兵中隊長の通 八、一六、一團山砲兵連隊の方と 八、二四、代厚隊附連に於て				275
		羽原城河にて 二八一大隊 (八名は他へ轉出)				

隊 小 馬 乘	李 行 隊 聯	隊 中 砲 兵 步	隊 中 信 通	李 行 隊 大 三 第	隊 小 砲 兵 步 隊 大 三 第	隊 中 銃 砲 後 三
		少尉 平身代秀夫 (中尉 藤原 清)	指揮班 有伴 林 直江 孝 長瀬 長 山口 忠成	中尉 井杉 静夫		
		76	300			120
		河 載 半 (動 移 = 通 面 八 = 後)				砲 石
						子 家
		八、一〇、大石山に轉進(殘留四三名) 八、一一、行方不明一名 八、一四、肥前砲兵中隊長の指揮下に入る 八、一六、一國山陣進主力と分離 八、二四、代馬藩附近に於て解散				



石原城河にて

石原城河にて

二八一大隊
(八名は他へ轉出)

17

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="619 723 1161 1093"><tr><td data-bbox="624 730 879 909">1</td><td data-bbox="879 730 1157 909">2</td></tr><tr><td data-bbox="624 909 879 1088">3</td><td data-bbox="879 909 1157 1088">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0148
0149
0150
0151
0152

第五軍 部隊名

(一) 通稱號

郵便所名

全般概要
轉入
轉出
員人制編
別隊
隊長名
戰鬥間の状況及損耗
人員變動
作業大隊より
入ソ返の變動
入ソ人員
滿洲殘

217	217	35	124	51	別隊
隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	李行隊大一第	隊小砲兵歩隊大一第	別隊
佐藤 三平	中尉 靈山 徹忍	少尉 菊地 儀三	大尉 岩戸 貞次	坂井	(内は先代を示す)
					戰鬥間の状況及損耗
					人員變動
					作業大隊より 入ソ返の變動
					入ソ人員
					滿洲殘

師團命令により軍の補給隊を
中隊、歩兵中隊と牡丹江軍
置され戦斗し、歩兵隊の殆どは
中隊は後進河子を経て吉林に退き、
式に解散


第一小隊は八月九日
八月十一日横道河子で
八月十三日武解
八月十五日
八月十七日
八月十九日
八月二十日
八月二十一日
八月二十二日
八月二十三日
八月二十四日
八月二十五日
八月二十六日
八月二十七日
八月二十八日
八月二十九日
八月三十日
八月三十一日

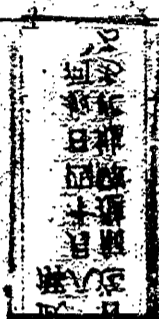
217	217	35	124	51	員人制編
隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	李行隊大一第	隊小砲兵歩隊大一第	別隊
中尉 靈山 徹忍	少尉 菊地 儀三	大尉 岩戸 貞次	坂井		()内は先代を示す 隊長名
					開人 戦時 員
					駐屯地
右同	右同	子城下			戦斗間の状況及損耗
<p>第一小隊は八月九日午前四時、江津にあり、八月五日、行方不明二名</p> <p>師團命令により軍の進退を監視する中、歩兵中隊と江津市外海軍工廠に襲われ戦死し、歩兵連の殆んどは全滅す。中隊は渡辺河子を経て浦津に於て九、三〇式銃解劣</p>					人員變動
					作業大隊より入ッの變動
					入ッ人員
					満洲残留
					收容所名
					所入
					死亡
					満洲より領
					人員
					者数
					状況不明

部隊名 (一) 通稱號 郵便所名

61	217	217	217	35	124
第二隊大歩兵	第六中隊	第五中隊	第四中隊	第二隊本部	第一隊大行
少尉 (兼任) 桑田 脩	佐藤 三千	中尉 鹽山 徹忍	少尉 菊地 儀三	大尉 岩戸 貞次	坂井
	右側	右側	右側	手前下	

小橋一は八月九日
 道は河子江で八月
 十日は河子江で八月
 十一日河子江で八月
 十二日河子江で八月
 十三日河子江で八月
 十四日河子江で八月
 十五日河子江で八月
 十六日河子江で八月
 十七日河子江で八月
 十八日河子江で八月
 十九日河子江で八月
 二十日河子江で八月
 二十一日河子江で八月
 二十二日河子江で八月
 二十三日河子江で八月
 二十四日河子江で八月
 二十五日河子江で八月
 二十六日河子江で八月
 二十七日河子江で八月
 二十八日河子江で八月
 二十九年河子江で八月
 三十日河子江で八月

51	217	217	217	35	124	51
小砲兵歩隊大二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	奉行隊大一第	隊小砲兵歩隊六一第
少尉(兼任) 桑田 脩	佐藤 三千	中尉 靈山 徹忍	少尉 菊地 儀三	大尉 岩戸 貞次	坂井	
	右同	右同	右同	子城下		
						

隊小砲兵歩隊大二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	季行隊大一第	隊小砲兵歩隊六一第
少尉 (兼任) 桑田 脩	佐藤 三千	中尉 靈山 徹忍	少尉 菊地 儀三	大尉 岩戸 貞次	坂井	
	右同	右同	右同	子城下		
		<p>  題圖令より軍の陣地設けの事 中隊、歩兵中隊と牡丹江市外 置され、歩兵中隊の殆んどは 中隊は横道河子を経て前線に 進出せり。 </p>				

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="619 725 1155 1099"><tr><td data-bbox="624 725 879 909">1</td><td data-bbox="879 725 1150 909">2</td></tr><tr><td data-bbox="624 909 879 1099">3</td><td data-bbox="879 909 1150 1099">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

番号			所属	部隊名		通稱		郵便所名	
			第五軍	(一)		通稱		(二)	
全般概要			全	入	出	人員編		隊長名	
			十九年以降	十九年以降	十九年以降	別		少尉	
						別		人員	
						戦		駐屯地	
						人員		戦	
						平時		戦時	
						戦		戦	
						時間		時間	
						戦闘間		戦闘間	
						状況		状況	
						及		及	
						損		損	
						耗		耗	
						戦		戦	
						後		後	
						の		の	
						人員		人員	
						變動		變動	
						作業大隊より		作業大隊より	
						入		入	
						入		入	
						入		入	
						入		入	
217	第七中隊		第九師団	275	124	少尉	桑田	緒	
右	同	右						子城下	戦闘間の状況及損耗
									終戦後の人員變動
									郵便所名
									滿洲残留

0158
0157
0156
0155

第三大隊
二〇、八、九、夕の命令
に依り、平賀大隊長以下、右
翼隊團(二四師團)を收
獲し、

九月八日北平に於て、
第一師団司令部の命令に
依り、第九師団(二四師
團)を收獲し、

九月八日北平に於て、
第一師団司令部の命令に
依り、第九師団(二四師
團)を收獲し、

九月八日北平に於て、
第一師団司令部の命令に
依り、第九師団(二四師
團)を收獲し、

九月八日北平に於て、
第一師団司令部の命令に
依り、第九師団(二四師
團)を收獲し、

0153	0154	0155	0156	0157	0158	第三大隊 二〇、八、九、夕陽軍命令 に依り平賀大隊長以下、右 翼隊團(二四四團)を改 編したる			全般概要	轉入	轉出	人員調編			別隊	隊長名 (内は先代を示す)	戰人員	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員	滿洲殘留
						轉入	轉出	217	35	124	275	時	平	戰			時					時	
						第五軍						部隊名						(二)	郵便所名				
第一		第七中隊		第三大隊本部		第二大隊行季		第二機關銃中隊															
		少尉 西澤 秀雄		大尉 平賀 健一				少尉 桑田 裕															
右同		右同		子城下		子城下		子城下		右同		右同		子城下		子城下		右同		右同			
		軍機保護中隊として聯隊本部と共に行動す								機銃統一ヶ小隊配屬													
						作業大隊 (長 平賀健一 大尉)																	

第五軍 部隊名 (一) 郵便所名
 第五軍部 第一隊
 第五軍部 第二隊
 第五軍部 第三隊
 第五軍部 第四隊
 第五軍部 第五隊
 第五軍部 第六隊
 第五軍部 第七隊
 第五軍部 第八隊
 第五軍部 第九隊
 第五軍部 第十隊
 第五軍部 第十一隊
 第五軍部 第十二隊
 第五軍部 第十三隊
 第五軍部 第十四隊
 第五軍部 第十五隊
 第五軍部 第十六隊
 第五軍部 第十七隊
 第五軍部 第十八隊
 第五軍部 第十九隊
 第五軍部 第二十隊
 第五軍部 第二十一隊
 第五軍部 第二十二隊
 第五軍部 第二十三隊
 第五軍部 第二十四隊
 第五軍部 第二十五隊
 第五軍部 第二十六隊
 第五軍部 第二十七隊
 第五軍部 第二十八隊
 第五軍部 第二十九隊
 第五軍部 第三十隊
 第五軍部 第三十一隊
 第五軍部 第三十二隊
 第五軍部 第三十三隊
 第五軍部 第三十四隊
 第五軍部 第三十五隊
 第五軍部 第三十六隊
 第五軍部 第三十七隊
 第五軍部 第三十八隊
 第五軍部 第三十九隊
 第五軍部 第四十隊
 第五軍部 第四十一隊
 第五軍部 第四十二隊
 第五軍部 第四十三隊
 第五軍部 第四十四隊
 第五軍部 第四十五隊
 第五軍部 第四十六隊
 第五軍部 第四十七隊
 第五軍部 第四十八隊
 第五軍部 第四十九隊
 第五軍部 第五十隊
 第五軍部 第五十一隊
 第五軍部 第五十二隊
 第五軍部 第五十三隊
 第五軍部 第五十四隊
 第五軍部 第五十五隊
 第五軍部 第五十六隊
 第五軍部 第五十七隊
 第五軍部 第五十八隊
 第五軍部 第五十九隊
 第五軍部 第六十隊
 第五軍部 第六十一隊
 第五軍部 第六十二隊
 第五軍部 第六十三隊
 第五軍部 第六十四隊
 第五軍部 第六十五隊
 第五軍部 第六十六隊
 第五軍部 第六十七隊
 第五軍部 第六十八隊
 第五軍部 第六十九隊
 第五軍部 第七十隊
 第五軍部 第七十一隊
 第五軍部 第七十二隊
 第五軍部 第七十三隊
 第五軍部 第七十四隊
 第五軍部 第七十五隊
 第五軍部 第七十六隊
 第五軍部 第七十七隊
 第五軍部 第七十八隊
 第五軍部 第七十九隊
 第五軍部 第八十隊
 第五軍部 第八十一隊
 第五軍部 第八十二隊
 第五軍部 第八十三隊
 第五軍部 第八十四隊
 第五軍部 第八十五隊
 第五軍部 第八十六隊
 第五軍部 第八十七隊
 第五軍部 第八十八隊
 第五軍部 第八十九隊
 第五軍部 第九十隊
 第五軍部 第九十一隊
 第五軍部 第九十二隊
 第五軍部 第九十三隊
 第五軍部 第九十四隊
 第五軍部 第九十五隊
 第五軍部 第九十六隊
 第五軍部 第九十七隊
 第五軍部 第九十八隊
 第五軍部 第九十九隊
 第五軍部 第一百隊

部隊名

(三)

通稱號

郵便所名

八 第	隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第	李 行 隊 大 二 第	隊 中 銃 關 機 二 第	別 隊
	少尉 西羅 秀雄	大尉 平賀 健一		少尉 桑田 脩	隊長名 (内は先代を示す)
					戦開人 時員
					駐屯地 平時 戦時
右 同	右 同	子城下		子城下	
接闘銃一ヶ小隊配属	軍旗護衛中隊として聯隊本部と共に行動す				戦闘間の状況及損耗
					終戦後の人員變動
		作業大隊 (長 平賀健一大尉)			作業大隊より 入ソ連の變動
					入ソ連人員 除別計
					滿洲殘留
					收容所名
					收容所 所人 死亡
					滿洲より領 計
					歸還人員 者 狀況不明 数

0150
0151
0152
0153
0154
0155
0156
0157
0158
0159
0160

JAPAN CENTER FOR ASIAN HISTORICAL RECORDS
KAWASUMI Bldg. 6F, 2-2-1 Honcho, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8588, JAPAN
TEL: 03-3588-3730

第十師団 歩隊 第一中隊 第十班
 第十師団 歩隊 第二中隊 第十班
 第十師団 歩隊 第三中隊 第十班
 第十師団 歩隊 第四中隊 第十班
 第十師団 歩隊 第五中隊 第十班
 第十師団 歩隊 第六中隊 第十班
 第十師団 歩隊 第七中隊 第十班
 第十師団 歩隊 第八中隊 第十班
 第十師団 歩隊 第九中隊 第十班
 第十師団 歩隊 第十中隊 第十班

217	217	217	35	124	275
隊中九第	隊中八第	隊中七第	部本隊大第三第	李行隊大二第	隊守衛團機二第
木口		少尉 西羅 秀雄	大尉 平賀 健一		少尉 松本 健一
右同	右同	右同	子城下		子城下
西村 繁吉少尉の指揮する連隊第一小隊 小隊を前進、陣地である懸崖に警戒隊として派遣、戦死、行方不明 十五名	連隊第一小隊	軍旗護衛中隊として連隊本部と共に行動す			作業大隊 (長 平賀 健一 大尉)

大正十二年四月二十五日
 陸軍大臣 寺内寿一
 陸軍省 参謀部
 第〇二五〇号
 支那 奉天 支隊
 支隊 奉天 支隊

第三大隊
 二〇八六号
 奉天 支隊
 支隊 奉天 支隊

217	217	217	35	124	275
隊 中 九 第	隊 中 八 第	隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第	率 行 隊 大 二 第	隊 中 銃 關 機 二 第
木口		少尉 西羅 秀雄	大尉 平賀 健一		少尉 桑田 裕
右 同	右 同	右 同	子城下		子城下
西村晴吉少尉の指揮する機銃銃一ヶ小隊に 屬	機銃銃一ヶ小隊に屬	軍隊護衛中隊として機銃本部と共に行動す			

〃作隊大隊
 (長 平賀健一大尉)

隊中九第	隊中八第	隊中七第	部本隊大三第	率行隊大二第	隊中銃弱機二
木口		少尉 西羅 秀雄	大尉 平賀 健一		
右同	右同	右同	子被下		子被
西村晴吉少尉の指揮する機銃一挺小隊配属	機銃一挺小隊配属	軍旗護衛中隊として機銃本部と共に行動す			

機銃一挺小隊配属

作業大隊
(長平賀健一大尉)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="632 730 1166 1099"><tr><td data-bbox="632 730 895 913">1</td><td data-bbox="895 730 1166 913">2</td></tr><tr><td data-bbox="632 913 895 1099">3</td><td data-bbox="895 913 1166 1099">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0159
0160
0161
0162

第五軍第一二六師團部隊名步兵第二七八聯隊(一)

通稱號 滿八〇三
英斷一五二五三

郵便所名

全般概要

轉入 轉出

員人對編

別隊

隊長名

戰時人員

平時

時戰

時

駐屯地

戰鬥間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より入「ソ」迄の變動

隊別計

滿洲残留

駐丹江市外松河附近、愛河
及半蔵河方面に「ソ」第一
と第二
「死者」一〇〇名以上
「傷者」四〇〇餘名
「相害」あり
收戦に依り部隊は分隊決裂
となり、横道河子明月溝、
牡丹江、東京附近で夫々
武解
海林、教化、寧安、東京城
の各收容所に收容せられたる
海林に於ては約六〇〇名の
生存者あり(同地に約一〇
〇名)(各中隊幹部)殘留は
「タイセット」地區に收
容
入隊兵の大部分は舊六師團
關係で熊本、鹿児島高野方
面の者多し、但し終戦當時
部隊の青年学校(少尉)の大
部分は自取中隊四七隊隊員
身者
第一大隊
八、六愛河陣地死守
隊命令を交り本部を追求
するも不明、約一〇名単位
に分隊す
二大隊約80名)

3410名(20.1.16編成)

第三	第二	第一	第一	第一
少尉 龍谷 (向井)	少尉 松浦順一郎 (小林) (戦死)	少尉 福本 好夫 (戦死)	少佐 本間 猛 副官 松本 泰二	大佐 山中 隆 副官 安倍
160	160	160	35	47
		右同	釣馬大	子面八
一五日連絡絶し、状況不明なるも損害相當あり。損耗	戦時状況第一中隊に同じ 殆んど全員戦死(負傷者で後退せるもの若干あり) 内務中隊中隊長以下一ヶ小隊を第一機團統 隊長の指揮する第三中隊救援隊に参加せし むるも中隊長戦死被害大	大馬釣に於て敵の前進を阻止すべく同地に陣地を築き、八、一四、三午より敵一ヶ機團の攻撃を受く、八、一五夕迄戦斗、横道河子方面に後退、この間の我が方の損害(八、一五、一七、〇〇現在) 一 小隊(戦死五、六、後退時大分損害を受け、約四〇名) 二 小隊(戦死行方不明四〇、生還七) 三 小隊(全員戦死四七、長、水戸軍曹) 指揮班は損害なし		等隊、隊中佐、高級主計課中隊自決、 旗手古川少尉、副官安倍中隊戦死

一五日連絡絶し、状況不明なるも損害相當あり。損耗

四大隊 (長 上原豊吉大尉)				

3410名(20.1.16編成)		217	217	35	47	員入制編
第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊聯	別隊	別隊
少尉 (龍谷 向井)	少尉 松浦順一郎 (小林) (戦死)	少尉 福本 好夫 (戦死)	少佐 本間 泰二 副官 松本 泰二	大佐 山中 隆 副官 安倍	隊長名 (内は先代を示す)	隊別
	160	160			戦時	戦時
					平時	平時
		右同	釣馬大	子面八	駐屯地	駐屯地
一五日連絡絶し、状況不明なるも損害相宜ある模様	戦時状況第一中隊に同じ 殆んど全員戦死(負傷者で後退せるもの若干あり) 内務隊中隊長以下一ヶ小隊を第一機銃隊 隊長の指揮する第三中隊救援隊に参加せし むるも中隊長戦死損害大	大馬釣に於て敵の前進を阻止すべく同地に陣地占領、八、一四、正午より敵一ヶ隊の攻撃を受く、八、一五夕迄戦斗、横道河子方面に後退、この間の我が方の損害(八、二五、一七、〇〇現在) 一 小隊(戦死五〇六、後退時大分損害を受つた) 二 小隊(戦死四〇、小隊長負傷他負傷者若干あり) 三 小隊(戦死四七、長、水戸軍曹)指揮班は損害なし		遼東、房中佐、高級主計官中尉自決、 銃手吉川少尉、副官安倍中尉戦死	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動
			四大隊 (長 上原豊吉大尉)		作業大隊より 入ソ」迄の變動	入ソ」人員
					隊別	隊別
					計	計
						満洲残留
					ウヤチカ ニスプリスカヤ	收容所名
						所入
						死亡
						満洲より
						領計
						人員
						状況不明
						者数

一部隊名 歩兵第二七八聯隊(一)

通稱號 滿八〇三
英斷一五二五三

郵便所名

3410名(20.1.16編成)					
309	217	217	217	35	47
隊中銃關機一第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊
<p>中尉 石原 (戦死)</p> <p>少尉 脇 (歸還)</p> <p>同 安宅(歸還)</p>	<p>少尉 龍谷 (向井)</p>	<p>少尉 松浦順一郎 (戦死)</p> <p>(小林)</p>	<p>少尉 福本 好夫 (戦死)</p>	<p>少佐 本間 猛</p> <p>副官 松本 泰二</p>	<p>中尉 安倍</p>
		160	160		
				右 同	
<p>八、一〇、八、一五、八面子、大馬釣で戦 半、(現存者)(三名) 宮崎県土原、小銃を銃座し、途中は、 八、一〇、八、一五、八面子、大馬釣で戦</p>	<p>一五日連絡絶し、状況不明なるも損害相 ある模様</p>	<p>戦況状況第一中隊に同じ 殆んど全員戦死(負傷者で後送せるもの者 もあり) 内務掛中隊書記以下一ヶ小隊を第一捕獲 隊長の指揮する第三中隊救援隊に参加せし むるも中隊書記戦死損害大</p>	<p>大馬釣に於て敵の前送を阻止すべく河地に 陣地を築き、八、一四、正午より敵一ヶ隊 の攻撃を受く、八、一五夕迄戦い、横道河 子方面に後退、この間の我が方の損害(八、 一五、一七、〇〇現在) (戦死五、六、後送時大分損害を受 一 小隊(戦死五、六、後送時大分損害を受 けたらし、小隊書記負傷者) 二 小隊(戦死五、六、後送時大分損害を受 けたらし、小隊書記負傷者) 三 小隊(全員戦死七、五、水戸軍曹) 指揮権は損害なし</p>	<p>大馬釣に於て敵の前送を阻止すべく河地に 陣地を築き、八、一四、正午より敵一ヶ隊 の攻撃を受く、八、一五夕迄戦い、横道河 子方面に後退、この間の我が方の損害(八、 一五、一七、〇〇現在) (戦死五、六、後送時大分損害を受 けたらし、小隊書記負傷者) 二 小隊(戦死五、六、後送時大分損害を受 けたらし、小隊書記負傷者) 三 小隊(全員戦死七、五、水戸軍曹) 指揮権は損害なし</p>	
					四大隊 (長 上原登吉大尉)

入隊兵の大部分は第六師團
隷下で熊本、鹿児島、高知、
四の各隊より、但し各隊員
部隊の青年将校(少佐)の
大部分は島原中隊五十七隊
出身者

第一大隊
八、六島河津地死守
後送命令を受け本隊を追求
するも不明、約一〇名単位
に分散す
全大隊約80名)

隊中銃關機一第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第	部本隊
中尉 石原 (附) 少尉 脇(歸還) 同 少尉 安宅(歸還)	少尉 龍谷 (向井)	少尉 松浦順一郎 (小林) (戦死)	少尉 福本 好夫 (戦死)	少佐 本間 猛 副官 松本 泰二	中尉 安倍
		160	160		
			右 同	釣馬大	子頭
八、一〇と八、一五、八面子、大馬釣で戦 斗、(生還者)二三名 宮路見士以下小銃手を實施しつつ途中はら くになり拉古にて五名のみ実解	一五日連絡絶し、状況不明なるも損害相当 ある模様	戦況第一中隊に同七 殆んど全員戦死(負傷者で後退せるもの著 干あり) 内務隊中隊官以下一ヶ小隊を第一機銃隊 隊長の指揮する第三中隊救援隊に参加せし むるも中隊官長戦死損害大	大馬釣に於て敵の前進を阻止すべく同地に 陣地占領、八、一四、正午より敵一ヶ師團 の攻撃を受く、八、一五夕迄奮戦、横河 子方面に後退、この間の我が方の損害(八、 一五、一七、〇〇現在) 一 小隊 (戦死五、六、後退時大分損害を受 けたるし、小隊長負傷他負傷者 約四〇) 二 小隊 (戦死行方不明四〇、生還七) 三 小隊 (全員戦死四七、生 六戸重) 指揮班(損害なし)	田大塚 (戦) 上頭(戦死)	戦況不明なるも損害相当ある模様

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="630 728 1165 1097"><tr><td data-bbox="630 728 885 907">1</td><td data-bbox="885 728 1165 907">2</td></tr><tr><td data-bbox="630 907 885 1097">3</td><td data-bbox="885 907 1165 1097">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0163
0164
0165
0166

第五軍 部隊名

(二)

通稱號

郵便所名

全般概要						轉入	轉出	員人制編	別隊	隊長名	開人	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソノ返の變動	入ソノ人員	滿洲残留		
全般概要						十九年以降	十九年以降	員人制編	別隊	()内は先代を示す	戦時	平時	戦時	殆んど全滅の模様					
<small>中隊長、少隊長、隊長、第二大隊、半隊可動隊の編成等、九月、十月、十一月、十二月の攻撃を受け、隊主力と連絡断絶、状況不明。</small>								45	第一大隊歩兵小隊	深川									
<small>大尉 花島 友次</small>								96	第一大隊行幸										
<small>大尉 山澤 人延</small>								35	第二大隊本部										
<small>大尉 陽 平</small>								217	第四中隊										
<small>大尉 陽 平</small>								217	第五中隊										

第	隊 中 五 第	隊 中 四 第	部 本 隊 大 二 第	季 行 隊 大 一 第	隊 小 砲 兵 步 隊 大 一 第	別 隊	名
		山澤人延	大尉 花島 友次		深川	(内は先代を示す)	隊長名
						戦開人	戦時人員
			陽 平			駐屯地	平時
			隊 平			戦時	戦時
						戦斗間の状況及損耗	戦斗間の状況及損耗
						終戦後の人員變動	終戦後の人員變動
						作業大隊より入ソノ變動	作業大隊より入ソノ變動
						入ソノ人員	入ソノ人員
						満洲残留	満洲残留
						收容所名	收容所名
						所入	所入
						死亡	死亡
						満洲ソノ領	満洲ソノ領
						計	計
						者	者
						数	数

(一)

通稱號

郵便所名

45	217	217	217	35	96	45
隊小砲兵歩隊大二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	李行隊大一第	隊小砲兵歩隊六一第
少尉 鹽川敬一郎			山澤大延	大尉 花島友次		
				揚平		
				隊平		

45	217	217	217	35	96	45
隊小砲兵歩隊大二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	率行隊大一第	隊小砲兵歩隊大一
少尉 鹽川敬一郎			山澤人延		大尉 花島友次	
					陽平	
					隊平	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="638 734 1173 1104"><tr><td data-bbox="638 734 900 920">1</td><td data-bbox="900 734 1173 920">2</td></tr><tr><td data-bbox="638 920 900 1104">3</td><td data-bbox="900 920 1173 1104">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0167
0168
0169
0170
0171

属所 第五軍 部隊名 (二) 通稱號 郵便所名

全般概要				編制人員	隊別	隊長名 (内は先代を不) 中尉 小林 謙	戦時 駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソソ返の變動	入ソソ人員 隊別計
轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	人員編制		編制人員							
				217	35	96	309				
第 八 隊		第 七 中 隊	第 三 大 隊 本 部	第 二 大 隊 行 李	第 二 機 關 銃 中 隊	少佐 植田 善次					
<p>八月二十日... 八月二十七日... 二人班方面の國境守備に任ずる、その間戰...</p> <p>斗戰河附近より完運嶺山脈を経て横道河子へ向い</p>											

部隊名

第 八 隊	第 二 中 隊	第 三 大 隊 本 部	第 二 大 隊 行 李	第 二 機 關 銃 中 隊	隊 長 名 (内は先代を示す) 中尉 小林 静	開 入		駐 屯 地	戦 斗 間 の 状 況 及 損 耗	終 戦 後 の 人 員 變 動	作 業 大 隊 以 外 の 入 ソ の 變 動	入 ソ 人 員 計	滿 洲 殘 留	收 容 所 名	所 在 地	死 亡 者	滿 洲 以 外 領 土 へ 歸 還 人 員 計	状 況 不 明 者 數	
						時 間	人 員												
			少 佐 植 田 善 次																
八月九日、北八ノ田の陣中、以て下は平利三に道に途中、行方不明、三六十七聯隊は、大木村大																			
半蔵河附近より完全嶺山脈を経て、渡河するへ向ふ																			

(三)

通稱號

郵便所名

[Empty header space]

217

217

217

35

96

309

隊中 九 第

隊中 八 第

隊中 七 第

部本隊大三第

李行隊大二第

隊中銃騎機二第

少佐 植田 善次



半鐘河路近より完結嶺山脈を越す新津河子

隊中一第

隊中八第

隊中七第

部本隊大三第

李行隊大二第

隊中銃騎二第

少佐 植田 善次



半蔵河附近より完結嶺山脈を経て新道河子へ向ふ